

県内経済の動き

概況

〔2021年10月～2021年12月の動き〕

オミクロン株により県内経済に不透明感が漂う

鉱工業生産指数（10月）は8カ月ぶりに前年同月比低下、通関輸出額（11月 細島港）は2カ月連続で前年同月比減少した。百貨店・スーパー販売額（11月 全店ベース）は2カ月連続で前年同月比増加、「軽」を含む乗用車の販売台数（12月）は4カ月連続で前年同月比減少した。新設住宅着工戸数（11月）は2カ月連続で前年同月比増加し、公共工事（12月 保証対象請負総額）は2カ月ぶりに前年同月比減少した。有効求人倍率（11月）は前月比▲0.03ポイント低下の1.33倍で、12月の企業倒産は前月比3件減の1件、負債額は同6億5百万円減の2億65百万円となった。

10～12月は新型コロナの感染が抑制され、活発な経済活動がみられた。年始以降、オミクロン株拡大を警戒した経済活動の停滞が懸念される。